

# 星野さんを取り戻そう！ 全国再審連絡会議 2020年全国総会 基調報告

2020・8・30

## 【1】はじめに

昨年5月30日午後9時44分、星野文昭さんは東日本成人矯正医療センターにおいて無念にも死亡しました。享年73。

沖縄闘争を闘い、44年間不屈の獄中闘争を貫いたあげくの獄死という事態は、私たちにとって衝撃であり、痛恨の極みでした。心の底からの怒りに震えました。

私たちは7月5日に法務省包囲デモを行い、6日には全国総会を開催しました。ここで、星野文昭さんの意志を引き継いで闘う、国家賠償請求訴訟を申し立て必ず勝利する、大坂正明さんの裁判と一体で第3次再審闘争を闘うという方針を決めました。

昨日、大坂正明さん救援会の結成集会が行われました。星野さんと共に1971年11・14渋谷闘争を闘い、「殺人罪」でつち上げを打ち破るために闘っている大坂さんの無罪・釈放と星野さんの再審・無罪を一体のものとしてかちとりましょう。

なぜ星野文昭さんは獄死させられたのか、なぜ14cm×11cmという巨大な大きさになるまで発見されなかったのか、切除手術はどのように行われたのか、そして術後のケアはどうだったのか、いっさいは闇の中でした。昨年、東日本成人矯正医療センターと徳島刑務所に対して3回にわたる証拠保全の手続きを行い、大量の資料を手に入れました。その分析によって、星野さんの獄死は殺人にも等しい国家犯罪であることが判明しました。

今年2月21日に、星野暁子さん、星野治男さん、星野修三さんの3人が原告となり、星野文昭さん死亡の真相を糾明し責任を問う国家賠償請求訴訟を申し立てました。

6月22日に第1回口頭弁論、8月27日に第2回口頭弁論が開かれ、国賠闘争はいよいよ本格的な攻防に突入しました。8月7日に被告・国が「準備書面(1)」を提出しましたが、その内容は徳島刑務所と東日本成人矯正医療センターの責任を全面的に否定し、居直るものです。絶対に許せません。

星野さんの獄死という悲しみと衝撃を乗り越えて、これまでよりも大きな運動をつくり出しましょう。そういう観点で、運営委員会等において「星野国賠に勝利する全国運動」という新たな運動を発展させることを討議してきました。

## 【2】コロナ情勢の中での闘い

### (1) 新型コロナの拡大

#### ① コロナ感染症

新型コロナ感染症は、感染者総数が世界で2400万人を超え、死亡者は80万人を超えました。最大の感染国はアメリカで、感染者573万人、死亡者17・6万人、1日あたりの感染者は4万人以上です。

アメリカにおける感染者、重症者、死亡者の多くは、黒人やヒスパニックであり、保険

にも入れない貧困者です。コロナは自然現象ではなく、社会的疫病と呼ぶべきものであることが明白になっています。

## ②世界大恐慌と米中対立の激化

新型コロナの世界的拡大は、無理に無理を重ねてきた世界経済を大恐慌に突き落としました。2020年4月～6月の第2四半期のGDPは、全世界でリーマンショックを超える落ち込みを示しています。

日本はマイナス27・8%と過去最大で、3期連続のマイナスです。もともと「アベノミクス」の破綻によって極端な低成長が続いており、回復不能の打撃を受けています。

この危機に追い詰められたアメリカのトランプ政権は、米中対立の一層の激化をもたらし、今やそれは軍事的対決をエスカレートさせ、核戦争の危機が迫っています。

## ③コロナ×世界大恐慌との闘い

コロナ危機は新自由主義によって社会がどれほど破壊されてきたかを暴きましたが、同時に、アメリカから全世界に広がった労働者と労働組合の決起は、この社会を動かしている主人公が本当は誰であり、変革の主体は誰なのかを明らかにしました。

黒人男性ジョージ・フロイドさん殺害に抗議するBLM（黒人の命は大切だ）運動が始まると、数百年にわたる支配と抑圧を打ち破るものとして、全アメリカから全世界に拡大しました。アメリカでは、ILWU（国際港湾倉庫労働組合）やUTLA（ロサンゼルス統一教組）などの闘う労働運動がその中心にあります。

### （2）安倍政治を完全に倒そう

#### ①安倍首相辞任

8月28日、安倍首相は、労働者民衆の怒りに打ちのめされてグラグラ、フラフラになったあげく、ついに辞任に追い詰められました。安倍首相を辞任させた根本的な力は、大きく燃えあがった労働者民衆の怒りです。これが安倍首相を打倒したのです。

しかし安倍首相は病気による辞任を前面に押し出して、「モリ、カケ、サクラ」から財務省文書の改竄、河井夫婦の選挙違反、IR汚職、黒川検事長問題まで数々の疑惑や犯罪行為を闇に葬ることを狙っています。「辞めて終わり」を絶対に許しません。

安倍首相を徹底的に追及し、監獄にたたき込むまで闘いましょう。

#### ②労働者民衆への犠牲の押しつけ

コロナによる解雇は、厚生労働省の統計では2月以降、7月21日までに3万6750人とされていますが、実際にはそんな数にとどまらないことは明白です。

総務省発表の4月の労働力調査では、非正規労働者の数は前年同月比で97万人減、緊急事態宣言が出される前の今年2月と比べると150万人も減っています。少なくとも100万人規模の労働者が職を失ったと見るべきです。

4月時点で休業していた労働者は597万人にのぼります。これらの労働者が、今後失業に追い込まれる可能性が高いのです。

それをあざ笑うかのように、政権と一体化した電通やパソナ（竹中平蔵）が国家財政に

むらがり、私腹を肥やしていることが明らかになりました。「G o t o トラベル」キャンペーンは、コロナ感染の一層の拡大をもたらしながら、1兆3500億円もの国家財政を様々な利権集団と政治家に流し込もうとするものです。

### ③闘う労働組合とストライキの復権

このような腐り切った新自由主義社会を打ち破る力は労働者民衆の中にあります。労働者民衆は全世界で急速にめざめ、その誇りを取り戻し、社会の真の主人公となる闘いを開始しています。

日本でも、医療労働者が命をかけてコロナ感染症と闘ったあげく、一時金の削減や支給ゼロとされたことに対して一斉退職やストライキに決起すると、ものすごい反響を呼びました。コロナ情勢の中で闘う労働組合の復権、ストライキの復権が進んでいます。

労働組合に入り、あるいは労働組合をつくって闘うことが急速に広がっています。

## 【3】星野闘争の総括

### (1) 星野文昭さんの闘いと死

#### ① 44年間不屈の闘い

星野文昭さんは沖縄と本土の分断を打ち破って、1971年11月14日、沖縄返還協定の批准に反対する渋谷闘争に決起しました。1960年代、沖縄はベトナム戦争の最大の出撃拠点とされました。米軍政の下で事件や事故が頻発しましたが、その真相や責任は常にうやむやにされました。この現実、沖縄の労働者民衆はもう我慢ならないと立ち上がり、71年には2度の全島ゼネストを日米政府に突き付けました。

それと連帯する11・14渋谷闘争は、70年安保・沖縄闘争の頂点をなす闘いでした。渋谷では集会・デモが禁止され、1万2000人の機動隊で戒厳令にも等しい状況に置かれました。それを突破して星野さんたちは闘ったのです。

学生運動と並んで、全国の青年労働者が街頭で闘うと同時に総評労働運動を根本からつくり変える闘いを開始しました。この中に佐藤政権—国家権力は、自らが打倒され、体制が変革される現実性を見て恐怖しました。

政府・国家権力は11・14渋谷闘争の先頭に立った星野文昭さんに憎しみを集中し、機動隊員1名が死亡した件で「殺人罪」をでっち上げて死刑を求刑しました。

非常に困難な情勢でしたが、ご両親を先頭に半年で12万人もの署名を集める必死の闘いを展開して死刑を阻止しました。一審判決は懲役20年でしたが、草場良八（後の最高裁長官）が一審判決を破棄して無期懲役を言い渡しました。上告棄却によってこれが確定判決になり、星野さんは徳島刑務所に送られました。

死刑求刑—無期懲役という極限的弾圧を受けながら、星野さんは44年間不屈に闘いぬきました。裁判傍聴を通して星野さんを知った暁子さんは獄中結婚し、文字通り一心同体で35年間を共に生き抜きました。

刑務所はissippiの自由を奪い、人間としての生活を否定します。冬は極寒に苦しめられ、夏は酷暑の中に置かれます。一度は認められた友人面会も、今では旧監獄法に逆戻りして、まったくできません。日常生活の隅々まで看守が目を光らせて、何度も不当な懲罰

や降格を受けました。その中で星野文昭さんは暁子さんとの愛を貫き、すべての人間を信じて44年間生き抜いてきたのです。

星野さんの存在と闘いや暁子さんの獄中結婚を知った人は激しく心を揺さぶられ、新自由主義攻撃の中で踏みにじられてきた自らの人間性を取り戻す道を見出しました。全国で開かれる絵画展とカレンダーは、毎年、数万人との交流を生みだしています。

星野文昭さんと暁子さんは、政府・国家権力が死刑求刑―無期懲役にかけた「二度と70年のような闘いをやらせない」という攻撃を最も根底的なところで打ち破りました。

## ②更生保護委員会闘争

2017年7月、星野文昭さんは無期懲役開始から30年を迎えました。法務省の通達によって、四国地方更生保護委員会は1年以内に仮釈放審理を始めることになりました。

更生保護委員会における仮釈放審理は、言わば敵の土俵での闘いでした。どのような可能性があるか、まったく不明な中での闘いでした。しかし、獄中30年で初めて星野さんの解放が審理されるのであり、星野さんはすでに72歳でした。私たちは、何としても星野文昭さんを取り戻す、更生保護委員会に仮釈放を許可させると固く決意し、闘いを開始しました。

闘いの中心は、更生保護委員会への申し入れでした。

13回にわたって高松市に行き、更生保護委員会への申し入れを行いました。毎回、要望書を提出し、総計2万人近くに達しました。全日建運輸連帯労組関西地区生コン支部や全港湾日本海地本が組織をあげて署名集めに取り組んでくれました。角田義一さん（弁護士、元参議院副議長）、小森龍邦さん（元衆議院議員、元部落解放同盟書記長）、荒井真理さん（佐渡市議会議員）らが決起して、家族・共同代表・弁護団と共に、更生保護委員会に決死の形相で迫りました。

2018年に2回、高松市で全国集会を開き、市内をパレードしました。『朝日新聞』や『四国新聞』、『沖縄タイムス』や『琉球新報』に意見広告を掲載し、国連人権理事会への通報と外国人記者クラブでの記者会見、参議院での院内集会を開きました。

2018年には、星野文昭さんと暁子さんをモデルにした演劇『ブラインド・タッチ』が上演され、星野闘争をより大きな幅広い闘いへ押し上げました。

この闘いの核心は、44年間の獄中闘争を貫く星野文昭さんの不屈性と「絶対に星野文昭さんを取り戻す」というみんなの本気さにありました。誰もが本気で闘い、それが広範な労働者民衆の心をとらえて闘いを大きく飛躍させたのです。私たちは、徳島刑務所、更生保護委員会、法務省を追い詰めて、後一步というところまで迫りました。

## ③星野文昭さんの死

2018年8月22日、かつて経験したことのない腹部の痛みに襲われて星野さんは倒れました。しかし徳島刑務所は1日病舎で休ませただけでした。「精密検査をしてほしい」とくり返し申し入れましたが、いっさい応じませんでした。

2019年3月1日にようやく腹部エコー検査を行って肝臓に巨大な腫瘍(しゅりゅう)があることを知りましたが、星野さん本人にも、家族・弁護団にも知らせませんでした。仮釈放審理が重大な段階を迎えていた更生保護委員会にも伝えませんでした。

5月28日、肝臓がん切除手術を受けていったんは「手術成功」の連絡が全国を飛び交いましたが、30日夜、星野文昭さんは無念の息を引き取りました。

## (2) 新たな闘いの開始

### ① 星野さん獄死を乗り越える闘い

星野さん獄死という大変な事態を乗り越えてどう進むのか。星野文昭さんなき星野闘争はどうなるのか。この1年余、私たちは必死の思いで闘ってきました。

そもそも「星野さんを取り戻そう！ 全国再審連絡会議」と全国の救援会は、星野文昭さんを獄中から取り戻すための運動体であり、そのために全力で闘ってきました。その目標が奪われたと言える厳しい日々の中で、全国の仲間はこの一年間「星野闘争」を継続して闘い続けてきました。

この一年間の闘いの上に、新たな星野闘争に踏み出しましょう。具体的には「星野国賠に勝利する全国運動」を発足させることを提起します。

### ② 星野文昭さんと暁子さんの闘いへの共感

今年前半は、コロナ感染症の拡大のために5月24日に予定した逝去1周年集会を延期せざるを得なくなり、各地の絵画展も中止が相次ぎました。それでも必死の努力と工夫で絵画展を開催すると、これまでにない成功をかちとっています。絵画展と合わせて開催される星野暁子さんの講演会も画期的な成功をおさめています。

なぜ、絵画展や暁子さん講演会は成功するのか。その根幹にあるのは、星野文昭さんの闘いの正義性であり、暁子さんと一体で闘った不屈性です。獄中という非人間的な状況の中でも人間的に生きたことへの感動であり、そのように生きられること、そして虐殺とも言えるような死に対する怒りです。

これらが、コロナ情勢で生きていけない状況に追い詰められ、安倍政権に怒りを燃やす労働者民衆と根底的なところで結びついています。

### ③ 「私が星野文昭になる」

沖縄の平良修さんが言われたように、星野文昭さんは暁子さんの中に生きており、私たちの中に生きています。今年1月、星野暁子さんは「自分が星野文昭になる」と宣言しました。これに感動し、「私が星野文昭になる」という人が続々と生まれています。

「私がチョンテイルだ」と宣言する100万人の労働者が根幹に座って韓国の民主労総の闘いがあるように、今こそ、新たな発展と飛躍をかちとりましょう。

## [4] 星野国賠に勝利する全国運動

### (1) 全国運動発足を

この間の運営委員会では、狩野満男さんの訴え（『星野新聞』103号）を基に、国賠闘争に勝利するための新たな運動をつくることを討議してきました。

その後も討議を進め、再審連絡会議を土台として「星野国賠に勝利する全国運動」をつくることを論議してきました。「星野国賠に勝利する全国運動」は、星野文昭さん獄死と

いう国家犯罪を真正面から弾劾し、責任を取らせるための闘いです。さらに、獄中医療や、獄中の人権問題で苦しめられる多数の人々と連帯する闘いです。そして広範な労働者民衆の闘いと結びつき、星野文昭さんが終生訴えた「すべての人間が人間らしく生きられる社会」に向かって進むものです。

広く知られているように、国賠訴訟に勝利するのは簡単ではありません。被告・国はあらゆる力を動員して裁判所を屈服させ、責任を否定しようとしています。

それを上回る決意と迫力で全国的な運動をつくり出して、裁判所に迫って行くのです。絵画展を開き、要望書を集め、労働組合や市民運動団体にも訴えます。学習会も重要です。

星野文昭さんを殺した責任をあいまいにするような裁判を絶対に許しません

この全国運動の呼びかけ人を新たにつのります。星野文昭さんの獄死に怒り、本気で闘う人を全国で組織していきましょう。

## (2) 裁判闘争

### ①法廷での闘い

法廷は重要な闘いの場となります。今後、2カ月に1回程度、口頭弁論が行われます。最初は書類による主張の応酬になりますが、一定の段階で証人調べを請求します。

被告・国が提出した「準備書面(1)」は怒りに震えるような内容です。

徳島刑務所の医師、東日本成人矯正医療センターの医師たち、とりわけ外部から招聘した執刀医の証人調べは絶対に実現しなければなりません。

### ②要望書集めと提出行動

法廷内のやり取りだけで勝利することはできません。

広範な労働者民衆の怒りで法廷を包み込み、真実に向き合うことを迫りましょう。あまりにも非人間的な獄中医療に苦しめられ、怒っている人は本当に多くいます。それらの怒りと共に闘いましょう。コロナ危機に苦しみ、安倍政権に怒っている広範な労働者民衆の怒りと結びつきましょう。

あらゆる場であらゆる人に訴えて、裁判所に提出する要望書を集めよう。

この秋には、要望書の提出行動や怒りのデモを企画します。

## (3) 『星野新聞』

『星野新聞』は1カ月に2回発行されています。しかし、1カ月に2回発行し、それを配布するエネルギーは大変なものがあります。

事務局としては1カ月に1回の発行とすることを提案します。

理由は、全国運動の発展のためです。『星野新聞』を1カ月に2回発行・配布するエネルギーを、新たな運動を飛躍させるために活用したいと考えています。

星野ホームページの強化にも取り組みます。

新たな担い手をつくり、広く社会にアピールするホームページをつくるための闘いを進めています。

## (4) 改憲・戦争阻止

改憲・戦争阻止大行進に参加して闘う人たちとの団結と連帯を強めていきましょう。ここにこそ、星野文昭さんの意志を引き継ぐ道があります。

11月1日、日比谷野外音楽堂で開かれる全国労働者総決起集会に全力で参加しましょう。共にその成功をかちとり、新たな運動を拡大していきましょう。

青年労働者や学生との団結を強めて闘いましょう。

全日建運輸連帯労組関西生コン支部は、組織絶滅を狙った攻撃と闘いながら、その只中で要望書を集めて送ってくれました。関西生コン支部と団結する闘いをさらに強化していきましょう。

全港湾日本海地本は、各支部総力をあげて取り組んだ要望書を送ってくれました。

沖縄闘争は、星野文昭さんの原点そのものであり、星野闘争にとって最も重要な課題です。沖縄の基地は日米安保の最大の実体です。これと不屈に闘っている沖縄の労働者民衆との連帯を強化していきましょう。

今年4月26日、三里塚に「星野文昭さんここに眠る」というモニュメントを建立しました。モニュメントを拠点に、市東孝雄さんの農地を守っていきましょう。

9・27三里塚全国集会に全力で参加しましょう。

入管施設でまったく非人間的な処遇が行われ、被收容者は苦しめられています。とりわけ特に医療問題は深刻です。

入管施設への申し入れやデモを共に闘いましょう。

国際連帯はますます重要です。

韓国テグで星野絵画展と集会を行ったイドクチェさんは、8・6ヒロシマに連帯のメッセージを送って「来年は日本で共に闘う」と表明しました。

アメリカのILWUやUTLA、スティーブ・ゼルツァーさんとの団結を強めて闘いましょう。政治犯解放は、世界で闘う人たちの重要な課題です。

#### (5) 大坂正明さんと一体で闘い第3次再審勝利へ

大坂正明さんは、星野さんたちと共に11・14渋谷闘争を闘い、その後46年間もでっち上げ指名手配と闘った上、2017年に不当にも逮捕されました。

星野さんと大坂さんの裁判の証拠構造はまったく同じです。物的証拠はいっさいありません。あるのは、デモに参加した学生たちが警察・検察の密室で取られた「供述調書」だけです。その信用性を崩壊させましょう。そして、大坂さんの無罪・釈放と星野さんの再審・無罪を一体でかちとりましょう。

裁判所は大坂さんの裁判において、弁護団に加えて検察官まで反対しているのに、裁判員裁判を強行しようと狙っています。裁判員裁判は、被告人・弁護人の防御権を破壊するものです。

大坂さんは逮捕以来3年を超えて東京拘置所に勾留されていますが、いまだに接見禁止が続いています。友人たちと面会もできず、手紙のやりとりもできません。

現在、両鼻にできたポリープのために鼻呼吸がまったくできず、耳にまで影響が及んでいます。しかし東京拘置所の医師は大坂さんの手術を拒否し、「ここを卒業してから治療しろ」などと許しがたいことを言っています。

8月11日に大坂さん救援会は、東京拘置所に882通の要望書を提出し、鼻の手術を

ただちに行うよう申し入れました。星野救援会の仲間も全国で要望書を集め、共に闘いました。

今後とも、裁判所前街宣を共に闘って行きましょう。

大坂さんの無罪・釈放と星野さんの再審・無罪を一体で勝ちとりましょう。

須賀武敏さん（横浜刑務所）、板垣宏さん（前橋刑務所）、十亀弘史さん（水戸刑務所）の命と健康を守るために共に闘いましょう。とりわけ脊柱官狭窄症によって苦しめられている須賀武敏さんの治療を実現しましょう。

#### （6）星野文昭さんの意志を引き継ぐ闘い

星野文昭さんの意志を引き継ぐ闘いをさらに進めましょう。

沖縄闘争を闘い、44年間不屈に闘った星野文昭さんは獄中から「すべての人間が人間らしく生きられる社会」の実現を訴え続けました。このことが、広範な労働者民衆の決起と結びつく情勢が訪れています。

今日の情勢でとりわけ重要なのが、各地で開かれる絵画展と星野暁子さんの講演会です。どの絵画展においても、星野さんの存在と闘いを知った人が「こんな人がいたのか」と心が震えるような感動を示し、共に行動する人が次々に生まれています。

コロナ情勢を突き破って全国で絵画展を開き、労働者民衆の決起とつながる闘いを全国で展開しましょう。

### 【5】11・23全国集会

11月23日（月一休日）に全国集会を開催します。

会場は、墨田区にある曳舟文化会館の大ホールです。ここに、今年後半の闘いを集約して、星野文昭さんの意志を引き継ぐ全国運動を拡大していきましょう。

11月1日には、動労千葉等5団体が呼びかける全国労働者総決起集会が開かれます。改憲・戦争を阻止し、闘う労働運動をよみがえらせるための集会を共に成功させよう。

9月27日、三里塚全国集会に集まろう。

11月14日には、星野文昭さん納骨を群馬県の安養院で行います。

来年の5月30日は、星野文昭さん獄死の2周年になります。集会・デモを企画したいと考えています。

星野文昭さんの意志を引き継ぎ11・23全国集会に集まろう。

以上